

## 先史アンデス社会における文明の形成プロセスの解明 Studies of the Process for the Formation of Ancient Andean Civilization

加藤 泰建 (Kato Yasutake)  
埼玉大学・教養学部・教授



### 研究の概要

南米の先史アンデス文明における形成期の大神殿クントゥル・ワシ遺跡の発掘調査で得られた成果を集大成し、遺跡データベースを完成させるとともに、文明形成のプロセスと広域型神殿クントゥル・ワシが形成期社会において果たした役割を実証的に解明した。

### 研究分野／科研費の分科・細目／キーワード

人文学／文化人類学・文化人類学・民俗学／物質文化研究、先史・歴史研究

#### 1. 研究開始当初の背景・動機

1988 年以來 11 シーズンにわたって実施してきた南米の先史アンデス形成期後期の大神殿クントゥル・ワシ遺跡の発掘調査がほぼ完了した。この調査ではアメリカ大陸最古の金製品を伴った特別な墓を発見するなど大きな成果があがり内外の研究者からこの調査研究の成果を集大成して公表することが求められていた。

#### 2. 研究の目的

- ①クントゥル・ワシ神殿遺跡の発掘調査で得られた資料を整理・検討し、その成果をふまえた遺跡データベースを作成する。
- ②関連地域における複数の神殿遺跡の発掘調査を行い、比較資料を充実させる。
- ③それぞれの地域における社会発展のプロセスを検討しアンデス形成期における社会発展の中でクントゥル・ワシ神殿が果たした役割を解明する。

#### 3. 研究の方法

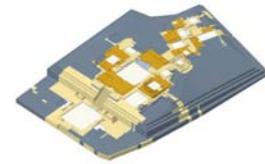
- ①データベースの作成にあたっては発掘日誌、遺構実測図面、発掘写真、遺物台帳など発掘時に作成した記録、および出土遺物の記録をすべて電子ファイル化し、それぞれのデータが相互に検索可能な状態にする。
- ②関連地域のデータ収集については、主に幾つかの神殿遺跡の集中的発掘調査を行う。
- ③それぞれの関連地域における社会発展のプロセスを検討するため、ヘケテペケ水系全体のセトルメント・パターンの変化を把握する。

#### 4. 研究の主な成果

- ①発掘データの分析と年代測定結果から、以下のような編年を確立した。

形成期中期Ⅱ	イドロ期	950-800BC.
形成期後期Ⅰ	クントゥル・ワシ期	800-550BC.
形成期後期Ⅱ	コパ期	550-250BC.
形成期末期	ソテラ期	250- 50BC.

- ②発掘調査において作成した遺構図を検討して4時期9フェイズにまとめ、神殿建築変遷の様相をあきらかにした。また3次元復元図3Dモデルを作成した。



クントゥル・ワシ神殿の正面 コパ期神殿の3D復元図

- ③出土資料を整理・再検討して(1)土器資料を全61タイプに分類、タイプの記述と写真・実測図からなるクントゥル・ワシ土器集成を完成させた。(2)石製品、骨・貝製品、土製品、金属製品について全資料の写真撮影と計測、原材料の同定、タイプ分類などを行い、詳細な遺物リストを完成させた。(3)獣骨資料を対象に動物考古学的整理・分析を行い、種同定のほか、形成期後期における家畜動物(ラクダ科)の導入や動物資源利用の実態についての解明を行った。

#### 〔4. 研究の主な成果（続き）〕



金製耳飾り



墓の副葬品

④クントウル・ワシ神殿遺跡の発掘調査に関連する全資料（発掘全体の記録、遺物のデータ、発掘調査データ、関連文書記録）を電子ファイル化して体系的な整理を行い個別データの相互検索が可能な遺跡データベース（KWDB）を作成した。このデータベースには原資料から分析の途上で作成した記録まで全てのデータが網羅されており出土遺物資料に関する保管状況の情報も含んでいる。

これら収納されたデータの種類と内容一覧、サンプルページおよび公開可能な分析結果なども収めた開示版 KWDB を作成し他の研究者が利用できる体制を整えた。

⑤形成期においてクントウル・ワシ神殿と関連する諸地域社会（ヘケテペケ流域地方、カハマルカ盆地、パコパンパ地域）で神殿遺跡の発掘など総合的な考古学調査を実施し、その成果からそれぞれの社会の独自の発展プロセスと相互関係を捉え、その中で広域型神殿クントウル・ワシが文明形成に果たした特異な役割をあきらかにした。

⑥アンデスにおいては形成期に神殿を核とする社会統合がみられ、それが文明形成の起動力となったことを実証的に明らかにした。とくに形成期における独特の社会発展プロセスの中で出現した広域型神殿クントウル・ワシの実態を解明した。広域型神殿は地域社会相互の多様な交流や流動性を促進させる役割を果たしたが、広い領域を統合するような大規模社会を生み出すことはなかった。広域型神殿の存在がかえって国家のような領域社会の形成を妨げたのである。やがて形成期の神殿はいずれも放棄されてしまうが、アンデス最初の国家社会の出現までには数百年の断絶期間があった。つまり神殿を中心とした文明の展開は国家社会の成立と直結しないことが明らかとなった。それが先史アンデス社会における文明形成プロセスのもっとも特異な点といえる。

#### 5. 得られた成果の世界・日本における位置づけとインパクト

クントウル・ワシ神殿の場合のような大規模な発掘調査に基づく遺跡データベースはアンデス先史研究でも類例がない。このような実証的データを踏まえた研究成果の公表は内外の学界に対する大きな貢献となる。

#### 6. 主な発表論文

（研究代表者は太字、研究分担者には下線）

- ・「先史アンデスの文明形成プロセス研究とクントウル・ワシ遺跡データベース」、**加藤泰建**、『先史アンデス社会の文明形成プロセス』（平成14-18年度科学研究費補助金研究成果報告）加藤泰建編、1-20, 2007.
- ・「クントウル・ワシ神殿の構造」、井口欣也、鶴見英成、伊藤裕子、『先史アンデス社会の文明形成プロセス』加藤泰建編、21-49, 2007.
- ・「クントウル・ワシ遺跡出土の土器資料」、井口欣也、『先史アンデス社会の文明形成プロセス』加藤泰建編、59-90, 2007.
- ・「ヘケテペケ下流域における形成期神殿と社会の動態ーリモンカルロ遺跡の発掘およびペルー北海岸一般調査よりー」、坂井正人、『先史アンデス社会の文明形成プロセス』加藤泰建編、183-214, 2007.
- ・「カハマルカ盆地の一般調査」、関雄二、ファン・ウガス、『先史アンデス社会の文明形成プロセス』加藤泰建編、241-260, 2007.
- ・「クントウル・ワシ遺跡より出土したソーダライト製品の原産地同定」、清水正明、**加藤泰建**、清水マリナ、『先史アンデス社会の文明形成プロセス』加藤泰建編、159-168, 2007.
- ・Cambios de manejo del poder en el Formativo: Desde el análisis de la dieta alimenticia, Seki, Yuji y Minoru Yoneda, *Perspectivas Latinoamericanas*, 2, 110-131, 2006.
- ・「遺跡発掘と文化遺産の保存ー南米ペルーにおける考古学調査の事例からー」、**加藤泰建**、『海外学術調査・フィールドワークの手法に関する総合調査研究』石井溥編、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、95-119, 2005.
- ・『古代アンデス：権力の考古学』、関雄二、京都大学学術出版会、1-315, 2006.